

首里城復元のための関係閣僚会議（第1回） 議事録

日 時：11月6日（水）9:40～9:55

場 所：官邸4階大会議室

出席者：安倍 晋三 内閣総理大臣

菅 義偉 内閣官房長官（議長）

衛藤 晟一 内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）

赤羽 一嘉 国土交通大臣

高市 早苗 総務大臣

麻生 太郎 財務大臣

萩生田光一 文部科学大臣

加藤 寛治 農林水産副大臣（代理出席）

（衛藤内閣府特命担当大臣）

只今から、首里城復元のための関係閣僚会議を開催します。お忙しい中、お集まり頂き、ありがとうございます。

10月31日に発生した火災により焼失した首里城の復元のため、関係行政機関の緊密な連携の下、総合的な検討等を行うため、首里城復元のための関係閣僚会議を設置いたしました。本日は、構成員の皆様から、これまでの首里城の復元の経緯や、今般の火災に係る現在の被害状況等をご発言頂きます。

それでは議事に入ります。構成員の皆様からご発言をお願いいたします。

まず初めに、赤羽国土交通大臣よりご発言をお願いいたします。

（赤羽国土交通大臣）

資料の1ページをご覧ください。首里城は、全国で17ある国営公園のうちの1つ、国営沖縄記念公園に設置された施設であり、沖縄の本土復帰記念事業の一環として、戦災によって失われた貴重な歴史的文化遺産を復元を目的として設置されました。

2ページをご覧ください。今回の火災により、木造で復元を行った正殿を含む計9施設が焼失いたしました。詳細については、この後、総務大臣より報告がございます。

3ページをご覧ください。首里城については、昭和61年の閣議決定を踏まえて復元に着手、平成4年に正殿を含むエリアを一部開園、本年2月に全園開園しておりました。なお、首里城の最も中心となる建物である正殿については、躯体も含めた建物全体を木造で復元していたところであり、建物を支える柱には台湾ヒノキが約100本使われておりました。また、首里城の屋根を飾る大き

な龍は、専門の職人の手によって、約 100 ピースにもなる陶器を組み合わせて作られておりました。今後の再建に当たっては、防火対策に加えて、こうした木材の調達や、職人の確保など、技術的な課題の検討が必要と考えています。

4 ページをご覧ください。首里城は、国内外から年間約 280 万人が訪れる沖縄を代表する観光地であるとともに、この時期沖縄を訪れる多くの修学旅行生の訪問先でもあります。首里城公園は、正殿を中心とする区域への立ち入りが制限されていますが、昨日より、守礼門や世界遺産である園比屋武御嶽石門を含む一部区域への立ち入りは可能です。首里城公園の開園情報については、国土交通省としても J N T O や観光庁の公式ツイッター等を通じて発信を行っています。沖縄の皆様に応援の声を届け、観光への影響を最小限にとどめるためにも、是非多くの方に訪れて頂きたいと考えております。

首里城は沖縄県民の皆様にとってのシンボルであり、今回の火災により多くの施設が焼失したことは、大変残念に思っております。国土交通省としても、首里城の再建に全力をあげて取り組むとともに、観光面でも、沖縄県等の取組と連携しながら、きめ細かな対応を行って参ります。

（衛藤内閣府特命担当大臣）

ありがとうございました。続いて、高市総務大臣よりご発言をお願いいたします。

（高市総務大臣）

10 月 31 日、沖縄県那覇市の首里城において発生した火災の状況について、那覇市消防局から聴取したところでは、出火箇所は首里城正殿 1 階、火災の覚知時刻は 10 月 31 日 2 時 41 分、鎮火時刻は 10 月 31 日 13 時 30 分であり、首里城正殿、北殿、南殿をはじめ複数の建物が全焼するなど、甚大な物的被害が発生しました。

出火原因については、現在、那覇市消防局において調査中であり、消防庁としてもこれまで職員 11 名を現地に派遣し、その技術的支援を実施しております。

今後、火災原因調査の結果を踏まえつつ、地元自治体とも連携しながら、火災の検証及び再発防止に向けて取り組んでまいります。

（衛藤内閣府特命担当大臣）

ありがとうございました。続いて萩生田文部科学大臣よりご発言をお願いいたします。

(萩生田文部科学大臣)

今回、甚大な被害に見舞われた首里城ですが、首里城跡は「琉球王国のグスク及び関連遺産群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている人類共通のかけがえのない文化遺産です。

文部科学省では、火災のあった10月31日に文化財調査官を現地に派遣して、被害状況の確認を行うとともに、火災現場から搬出した美術工芸品の保存のための応急措置に対する助言等を行っているところです。

文部科学省としては、世界遺産登録の抹消といった事態とならないよう、また、復元が適切かつ迅速に進むよう、我が国の考え方や取組をユネスコに丁寧に説明するなど、適切にユネスコと相談・調整等を進めてまいります。

また、4月のノートルダム大聖堂の火災以降、世界遺産・国宝の防火対策の充実に向けて取組を進めておりますが、今般の火災も踏まえ、関係府省と引き続き連携しながら、一層万全を期してまいりたいと思います。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。続いて私から発言いたします。

首里城については、先の大戦で焼失した後、復帰20年を契機に継続的に復元に取り組んできたものであり、今回の火災は、30年に及ぶ復元工事が完了し、沖縄のシンボルとしてさらなる活用・飛躍が期待されていた中で生じたものです。首里城は沖縄の歴史や文化、伝統を凝集したものであるだけに、沖縄の方々にとって、そのショックも大きく、沖縄県民の心痛は極めて深いものです。資料にもあるように、今回の火災では、正殿を始め国内外に知られた中心部が、広範囲にわたって焼失しました。

私自身、一昨日、実際に現地を視察し、これまで復元に携われた方のお話もお伺いしましたが、一刻も早い復元を果たさなければいけない、との思いを強くしたところです。

再建に当たっては、沖縄県民のお気持ちを踏まえつつ、広く国民の皆様の御理解と御協力を賜りながら、進めていくことが重要と考えています。現在、県内外で広まっている寄附の動きを踏まえながら、沖縄県とも相談していきたいと考えています。

いずれにしましても、沖縄振興を預かる立場として、現地と綿密に連携・連絡を図り、再建に向けた取組に全力で取り組んでまいります。

ここで、安倍総理大臣からご挨拶をお願いしますが、プレスの方が入りますのでしばらくお待ちください。

それでは、安倍内閣総理大臣からご挨拶を頂きます。

(安倍総理大臣)

首里城は沖縄の皆さんに大切にしてきた、沖縄の皆さんの誇りともいえる極めて重要な建造物です。一日も早く復元できるよう沖縄県や地元の皆様の御意見も伺いながら、必要な財源を含め政府として責任をもって全力で取り組んでまいります。

関係大臣を中心に政府一丸となって復元に取り組むとともに、観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進してください。

(衛藤内閣府特命担当大臣)

ありがとうございました。プレスの方は退室願います。

それでは、本日の首里城復元のための関係閣僚会議は、これで閉会したいと存じます。お忙しい中、どうもありがとうございました。